

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		豊島区医療的ケア児等支援協議会
事務局（担当課）		福祉部 障害福祉課
開 催 日 時		令和7年3月14日（金）13時30分～15時
開 催 場 所		としま産業振興プラザ（IKE・Biz）6階第三会議室
議 題		1. 開会 2. 議事 （1）豊島区の医療的ケア児の相談件数について （2）豊島区における医療的ケア児等コーディネーターの配置状況及び今後の配置予定 （3）豊島区医療的ケア児等保護者交流会について （4）令和6年度第一回豊島区医療的ケア児等支援協議会での意見への回答について （5）令和6年度医療的ケア児等支援に関する取り組み内容及び令和7年度の取り組み予定意見交換 3. 意見交換 4. 閉会
公開の 可 否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数0人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由

出席者	委員	東京都立大塚病院小児科部長、公益社団法人医師会理事、公益社団法人豊島区医師会公衆衛生学校医委員、公益社団法人豊島区医師会在宅医療相談窓口室長、一般社団法人看護師会代表理事、株式会社オリーブ・コミュニティ統括部長、相談支援事業所・アニマートとしま管理者兼相談支援専門員、東京都立北特別支援学校特別支援教育コーディネーター、医療的ケア児の保護者、福祉部長、福祉部障害福祉課長、福祉部障害福祉サービス担当課長、健康部健康推進課長、健康部長崎健康相談所長、子ども家庭部子育て支援課長、子ども家庭部子ども家庭支援センター所長代理、子ども家庭部保育課長、教育部学務課長代理、教育部教育センター所長
	事務局	障害福祉課 児童・障害児支援グループ

審 議 経 過

1. 開会

[事務局]

令和6年度第二回豊島区医療的ケア児等支援協議会を開催する。本日の傍聴者は0名である。

区の人事異動に伴い新しく就任した委員を紹介する。教育委員会事務局教育部学務課長鈴木悠斗。

2. 議事

(1) 豊島区の医療的ケア児の相談件数について

[事務局] (資料1について説明)

要旨：障害福祉課に医療的ケア児等コーディネーターが配置され、令和6年4月から相談を受けている。関係機関連絡が一番多く、医療保健分野だけでなく保育教育分野との連携も増えつつある。

(2) 豊島区における医療的ケア児等コーディネーターの配置状況及び今後の配置予定

[事務局] (資料2について説明)

要旨：豊島区は障害福祉課に1名、地域の指定障害児相談支援事業所に1名、医療的ケア児等コーディネーターが在籍している。令和6年10月、「医療的ケア児相談窓口」を豊島区役所障害福祉課窓口に設置し、豊島区の医療的ケア児の総合相談窓口を担うと共に、総合的な支援体制の構築に向けて、関係機関および庁内関係部署間における情報共有や連携の促進を行っている。区内の指定障害児相談支援事業所では主として個別支援を行っており、役割を分けている。

令和7年度は、区立児童発達支援センターに1名配置となり、豊島区役所内は障害福祉課と児童発達支援センターの2か所に配置となる。

[委員]

医療的ケア児等コーディネーターは、保育園の入園調整にも関わっているのか。医療的ケア児の受け入れに関して、行政と家族との調整がうまくいかなかったと話を聞いている。

[事務局]

個別支援は、地域で計画相談をしている医療的ケア児等コーディネーター方が中心となり、その時々で必要なサービスチームを組み立ててやっていく。保育園入園が必要であれば、地域のコーディネーターと行政が連携して相談を進めていく。

[障害福祉サービス担当課長]

医療的ケア児はいろいろな方がいるので全てを医療的ケア児等コーディネーターができるものではなく、関係部署と連絡調整をし、保育園入園希望があれば保育課に連携をとる。各部署にも医療的ケア児等コーディネーターが配置できれば、より緊密な連携がとれると思う。

(3) 豊島区医療的ケア児等保護者交流会について

[委員] (資料3について説明)

要旨：令和6年11月29日開催。参加者は保護者5名。就学に関すること、兄弟児との関わり方等について意見交換を行った。とても有意義な時間だったので、これからも続けていきたい。

(4) 令和6年度第一回豊島区医療的ケア児等支援協議会での意見への回答について

[障害福祉サービス担当課長] (資料4について説明)

要旨：第一回豊島区医療的ケア児等支援協議会でいただいた1番から18番までの意見について整理し、まとめた。

[委員]

14番意見「車いすにアシスト(補助装置)を取り付け可にしてもらいたい。」だが、子供が大きくなると子供の体重が増え、人工呼吸器機等も合わせると車椅子総重量150キロにもなる。少しの段差でもアシストなしで動かすのは大変。介助用アシストの取り付けについて、他区がやってないことを豊島区で先に取り組んでいただきたい。

15番意見「マッサージ券は医療的ケア児だけでなく親も使えたらよい」について。成長した子どもを抱えて毎日階段の上り下りや入浴をすると、親の体に痛みが生じるので、親

が使えるよう検討してほしい。車いすの子供を連れて個人宅のマッサージ施設まで行くのは、段差など移動が難しく使いづらい。車椅子で行けるような大きな施設・病院を増やしていただきたい。

[委員]

9 番意見「医療的ケア児関連施設での看護師不足の問題」だが、前回の医療的ケア児等支援協議会後に放課後等デイサービス事業者から訪問看護ステーションに協力依頼があり、二つの訪問看護ステーションのサポート契約に結びついた。同じ区内なので困っている現場があればマッチングして派遣する仕組みを作っていけると思う。

[委員]

豊島区の訪問看護師会の会議に出席し、放課後等デイサービスの紹介をしたら二つの会社にご契約いただいた。医療的ケア児等支援協議会があったからこそ進んだ話だと思うので、これからも連携を取らせていただきたい。

11 番「18 歳以降、放課後等デイサービスの的なものをつくっていただきたい」は、毎回話題となる。放課後等デイサービスでは、親御さんが遠慮なく仕事ができるよう少し長くお預かりする等、柔軟な対応もできる。生活介護等になると、帰宅も早く、親御さんの多くが退職を余儀なくされる。難しいとは思いますが豊島区が先駆けて取り組んでほしい。

[委員]

16 番「未就学児向けに特別支援学校の先生に話をしたい」だが、地域の小・中学校も含めた選択肢を早い段階で知る意味も含めて、就学前に特別支援学校の様子を知っていただきたい。保護者の会合等に出向いて学校の様子をお伝えすることも可能。一緒に連携しながら進めていきたい。

14 番「車いすのアシスト機能」について、最近では、人工呼吸器や加温加湿器を常につけている子も増えた。1 個 1 個の器材は大きくはないが、車椅子に搭載台をつけても入りきらない荷物は、車いすの後ろにかけて押している。自宅前までバスの送迎ができない場合、アシストが付けられるといいと思う。昔より外出の機会が増え状況が変わっていることを共有したい。

(5) 令和 6 年度医療的ケア児等支援に関する取り組み内容及び令和 7 年度の取り組み予定

[大塚病院]

当院は医療的ケア児や重症心身障害児の急変時の対応が主たる役割。レスパイトを増やしてほしいという要望を以前からいただき、引き続き検討はしている。

個室は 5 床あるが、常に重症心身障害児の方々が 1~2 床、1 ヶ月以上の長期入院をして

いる。5床しかない個室を3床以上埋めてしまうと、地域の先生方から受け入れ要請に対応できず、レスパイトの数を増やせない現状がある。

議事（4）18番の回答では、現実的な進展はない。レスパイトを増やせないのは、18歳以降の受け入れ先がないから。小児年齢を超えた方々の受け入れ施設を開拓しないと新規の方を全然受け入れられない。行政が区内医療機関での医療的ケア者受け入れリストの作成や、医療的ケア児のご家族に医療機関を提示するところまでのケアをしないと、この問題は解決しない。

[豊島区医師会]

医療的ケア児から医療的ケア者の受け入れとなると、医療機関により対応できる範囲は違い、状況に応じた受け入れは難しいのが今後の検討課題となる。

保育園の園医は小児科だけでなく内科の医師もあり、医師によって異なる医療的ケア児への反応や対応をどう調整していくかが一番の課題。

保育園の園医と主治医との医療的な調整が本当に難しく、行政と現場の温度差が大きい。医療的ケア児等コーディネーターがいろいろな部署をさらにうまく調整していただけると助かる。

医師会としては、小児と医療的ケア児の連携について、まだまだ足並みが揃っていないと言いはるので、足並みを揃えていけるようなことを今後7年度の取り組みとしては考えていきたい。

[豊島区医師会]

保育園における医療的ケア児の受け入れ課題を知るため、二つの園を視察した。最大の問題は送迎ができないこと。送迎は積極的に進めていただきたい。

退院後、保育園利用となるが、どの園が適切か重症度に応じてマッチングをさせていけないといけない。

お子さんの急変時、保育園ができる限界や誰が対応するか様々な点を話し合い、詰めていけないといけない。

医療的ケア児は、主治医、在宅医療医と複数の医師が関わる。保育園との間を繋ぐ橋渡しをする存在、役割を担う人がいない。今後、医療的ケア児が増えていけば、より医師同士、医師と園との話など、細かい情報を理解して、対応して下さる医師が区の職員として必要だと思う。

[豊島区医師会]

受託事業の在宅医療相談窓口では、区民・ご家族からの在宅療養に関する相談を受け付けている。高齢者の相談が多いが、医療的ケア児や小児がんのケースもあり、今後も引き続き相談を受けていく。多職種連携拠点として、地域支援の把握で来年度早々に区内訪問

看護ステーション向けのアンケートを行おうと思っている。

また、各種会議等で事例を通して見えてきた地域課題について当協議会で報告し、医師会での多職種連携とし、ICT を使った情報共有の仕組みなどもサポートさせていただきたい。

[豊島区看護師会]

令和 6 年度の取り組みとして、訪問看護ステーションからの訪問看護や専用通学車両への乗車、放課後等デイサービス事業の派遣に関する検討等を行っている。豊島区内の訪問看護ステーションが全て看護師会に入っている訳ではなく、全体が見えていないことが課題。令和 7 年度の取り組みとしては訪問看護の現場から見えてくる課題について、会議で課題が挙げられる仕組みを作ることが必要。看護師会が持っている情報を発信できるようデータをまとめ、伝えていきたい。重症心身障害児（者）等在宅レスパイト事業等についても、もっと皆さんに協力していただけるよう取り組んでいきたい。

[障害児通所支援事業所]

訪問看護ステーション連絡会へ出席し、看護師確保ができたため、定員 5 名から 7 名に増加した。

医療的ケア児等の受け入れを拡充し、豊島区への新規参入の児童発達支援・放課後等デイサービス事業者より相談がある。今後も、訪問看護師さんの連絡会に出席させていただきたい。

新規採用看護師の採用活動を強化し、安定して医療的ケア児の受け入れをしていきたい。

[障害児相談支援事業所]

私は相談支援専門員と医療的ケア児等コーディネーターをしている。リエゾンという部分では、看護師資格があるからできることが多い。

保育園の入園手続きや書類作成、主治医に意見を聞きに行く等、関係各所の情報共有の実施などを行った。医療的ケア児の入園後のフィードバック会議の開催なども行っている。障害サービス決定前の退院前カンファレンス、ご家族との関係構築も入っている。これらの繋ぎをやってきたがとても大変で、保育園の看護師から問い合わせが入り逼迫している。

課題は、在宅移行期は都がやっている東部訪問看護事業部が入るが、直接看護師と連絡を取らない決まりなので、緊急時、救急搬送をどうするかと揉めた次第だ。東部訪問看護事業部は 1 年間で終了するが、1 年では地域関係者は見放された状況になる。地域がわかっている豊島区看護師会の協力を得てお母さんたちに繋いでいきたい。

最近、ネパール人・中国人・多国籍の方が増えている。密に連携をとるため病院同行し、その内容を保育園や主治医等に情報提供している。日本語がわからない方が多いので書類の代筆・提出・受け取りを行っている。保育園への提出書類等を豊島区でもダウンロ

ードができるように検討していただきたい。

障害福祉課に医療的ケア相談児相談窓口が設立され、前年度より連携が取りやすく感謝している。

[北特別支援学校]

医療的ケアのあるお子さんの入学は増えてきている。学校の医療的ケアは基本的に都の要綱の範囲内。初期食の注入は、今まで全部を混ぜて入れていたのが一品ずつ入れられるように変わった。注入用の初期食と経口摂取の初期食は異なり、注入用は別に分けて給食室で作っている。通学専用車両が今年度も増車した。人工呼吸器を使っているお子さんの関係者が学校に集まり、災害時個別支援計画の会議を行った。

新たに入学するお子さんに関しては看護サマリー等で情報共有し、保護者の付き添い期間を短縮している。人工呼吸器を使っているお子さんについては、医療的ケアの指示書を書いた往診医の来る日に合わせて、学校の常勤看護師と特別支援教育コーディネーターと一緒に伺って、指示書の確認やおうちの中でそのお子さんの今後の生活について確認している。

宿泊行事は、日中時間帯、学校看護師の付き添いが可能となる。経口摂取と初期食注入の併用ができるようになる。

次年度4月に医療的ケア児のための通学専用車両が増車予定になっている。人工呼吸器のあるお子さんと、数ヶ月にわたる付き添いをお願いすることになるので、付き添う保護者の方への給食の提供が可能になっている。

[医療的ケア児保護者]

私の家であるお寺で、2ヶ月に1回ほど看護師や地域のボランティアを受け入れて、様々な重症心身障害児と保護者が楽しくなるような場作り、くつろいでもらうための活動「くつろぎ場」運営している。障害の子供たちの七五三法要もやっている。個別の電話相談をしている。

活動を広めたいと思い豊島区に後援事業をお願いしたら、「宗教法人と政治団体は後援事業にはならない。」と言われ、何とかならないかと思っている。

豊島区支援級保護者の会「白鳥の会」で、就労継続A型B型の事業所見学をしたが、施設内が狭すぎて、車椅子が入れなかった。知的がしっかりしている医療的ケア児が就労継続A型B型で働きたい場合、受け入れができず、生活介護に回ってしまうと悲しい。

[障害福祉課]

今年度、東部西部障害者支援センターの障害児相談支援を開始した。通所支援事業所開設時の家賃補助の補助金、看護師の追加配置の補助金も創設した。重症心身障害児（者）等在宅レスパイト事業もこの協議会の中でご意見をいただき、訪問先に学校等を追加した。医療的ケア児等コーディネーターを4月に配置し、10月に窓口を設置した。分身ロボット

を介した新しい働き方の実証実験や、個人情報の同意書を取り区役所内で共有できる仕組みを作っている。保護者交流会は、保護者委員中心の活動をバックアップしている。補装具、日常生活用具は障害児の所得制限を撤廃した。災害時個別避難計画をモデル的に作成して取り組んでいる。

7年度は医療的ケア児相談窓口も設置しているので、より他課と連携を図って対応したい。

[健康推進課]

乳幼児が病院から退院するときの受け入れ窓口として、地区担当保健師が関わっている。

「東京都重症心身障害児在宅療養支援事業」の成り立ちとしては、元々、重症心身障害児の支援事業だったが、十数年前から医療的ケア児が増える中で対象に加わった。長期入院から在宅に移行する際、民間の看護師では対応が難しいところを、医療的ケアに慣れた看護師が繋ごうと、都の看護部の中で調整しながら始まった。1年という利用期限はあるが、引き続き支援していく。

[子ども家庭支援センター]

6年度の取り組みとしては、令和10年9月西部こども家庭支援センターの千川中学複合施設移転に向けて、一時保育で医療的ケア児を受け入れるための施設視察、看護師の見学実習等を行っている。令和7年度の取り組みとしては、医療的ケア児の受け入れのための必要器具等の把握や準備、保育園の視察をして、様々な保育園と連携をとっている。看護業務連絡会等へ参加し情報共有をしている。

[保育課]

今年度の取り組みだが、昨年に2園、公立と私立で医療的ケア児を受け入れている。園の看護師や園長が交流をして、医療的ケア児について意見交換ができたことが良かった。医療的ケア児を受け入れる園は看護師2名配置、保育士は1名追加となる。16園あるが、看護師の手技等に差がある。来年度はサポート体制等の課題がある。入園申請書類のダウンロードについては、内部で持ち帰って検討したい。

[学務課]

学務課では区立の幼稚園小中学校に在籍する医療的ケア児のお子様たちに対し、学校看護師を配置する事業を行っている。

昨年度に引き続き学校看護師を2名配置した。補足としては、区立学校で開催している学校安全委員会において、保護者、看護師、主治医といった関係者とともに、教育委員会内部や庁内の関係部署とも連携を図り、お子様が安心安全に学校生活を送れるように支援をしている。

来年度も引き続き医療的ケア児の皆様が安心して学校教育を受けられるように適切に学校看護師の配置をしていく予定。

[教育センター]

就学先の相談として就学相談委員会を開き、より適切な支援が受けられる学びの場の提案を保護者の方に行っている。また、医療的ケア児を含めて様々な子たちが学校で生活する困りことを把握し、教育委員会内で学校施設課等々も情報共有して、手すりやスロープをつけたり、トイレの改修を行うなど連携をして対応している。

今年度、特別支援教育推進計画第2期を策定し、来年度4月から実施となる。各学校に推進計画、これまでの3年間の取り組みを踏まえて改訂したものを周知していく予定。

3. 意見交換

時間の関係で割愛

4. 閉会

[事務局]

本協議会は、例年9月、3月に実施していたが、令和7年度は令和7年7月上旬、令和8年1月下旬頃を予定している。

[会長]

以上をもって令和6年度第二回医療的ケア児等支援協議会を閉会する。

提出された資料等	資料1	豊島区の医療的ケア児の相談件数について
	資料2	豊島区における医療的ケア児等コーディネーターの配置状況及び今後の配置予定
	資料3	豊島区医療的ケア児等保護者交流会について
	資料4	令和6年度第一回豊島区医療的ケア児等支援協議会での意見への回答について
	資料5	令和6年度医療的ケア児等支援に関する取り組み内容及び令和7年度の取り組み予定
	参考資料1	豊島区医療的ケア児等支援協議会設置要綱
	参考資料2	豊島区医療的ケア児等支援協議会委員名簿